

## 平成26年度岡山県文化振興審議会議事概要

日時 平成27年2月6日(金) 10時～11時45分  
場所 おかやま旧日銀ホール(愛称ルネスホール) ワークルーム

### 1 開会

環境文化部長あいさつ

### 2 会長・副会長選任

会長に白井委員、副会長に佐々木委員を選任

### 3 議題

「おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について」

#### 事務局

- ・資料に基づき説明

#### 委員

- ・文化の力を県民や若い人達に知ってもらい、何かに役立てて欲しい。
- ・あまり数字にこだわらなくてもいいような気もするが、数字があると効果が解りやすい。

#### 委員

- ・学習指導要領の改訂により総合的学習の時間が減り、学校行事で県立美術館を訪れる機会が減ったのであれば、改訂は不当であるがこの会で声をあげることにはできないかと思う。
- ・県事業だけではなく、県全体の文化シーンを報告してほしい。
- ・文化、芸術、人文学に対する行政及び社会の認識が低すぎるので、成果を社会に働きかけること、文化芸術の復権もミッションの一つである。
- ・文化振興の目標の中に文化、芸術、人文学に対する県民の認知度を高めることを入れるべきだ。
- ・情報発信だけではなく、どれだけ受信されたかが重要であり指標に入れるべきだ。

#### 委員

- ・若い人が次の世代にどのように芸術文化を伝えていくかを、考える時期がきている。

#### 委員

- ・教育現場が音楽や美術を教科教育としか捉えていないのではないか。文化がベースにあってその上に教科教育がある。
- ・子どもの自己実現のためにはクリエイションの時間が大切であることを、

発信することが重要だ。

- ・アートマネジメントでは、一つのイベントを成し遂げたということでまた新たな展開が生まれるのではないかと思う。
- ・岡山ならではのものを発信できる人材を育てていきたい。
- ・子どものクリエイションとI氏賞等の関連性をつけると、より身近なものとして文化に親しめるのではないか。

#### 委員

- ・学習指導要領があるにしても、岡山県としてこれは推奨するからぜひしなさいという方針があってもいいのではないかと思う。
- ・クオリティの高い人の演奏を聴いて見る目、聞く目、感じる目を育ててほしい。子ども達の感性を育てたい。
- ・若い指導者を育てていかなければいけない。
- ・感性、考える力を養えるのは文化しかない。

#### 委員

- ・文化は相対性、総合性を欠いたら語れない。
- ・文化を論じる上で、相関性のわかるような資料にする必要がある。
- ・岡山県は国指定の無形文化財が少ないが、進捗状況はどうなっているのか具体的に報告してほしい。
- ・博物館をどういうふうに活用するのも、これからの大きな方向性だ。
- ・博物館や美術館に幼稚園児をどういうふうに馴染ませるのかも検討してほしい。
- ・県立大学の芸術文化人文系の授業にインターフェイスを活用するなど、誘い込むような努力をしてほしい。
- ・子ども達に耳学問、目学問をさせておくことが大事だ。

#### 委員

- ・岡山県は合唱コンクールに参加する学校が少ない。
- ・合唱コンクールに岡山県の参加数が少なく、芸術科教員も専門性をもった教員の配置が必要だ。

#### 委員

- ・教科を通して子どもの感性を育てている教科だということが、理解されていないのが大きな問題だ。
- ・校外学習が実施しやすいように、県全体で支援していく姿勢を理解してもらおう動きが必要だ。
- ・アートトラベリングを使っの授業では、子ども達がもっと文化財を見たいと思えるような授業を先生にしてもらえるよう支援したい。

## 4 閉会